

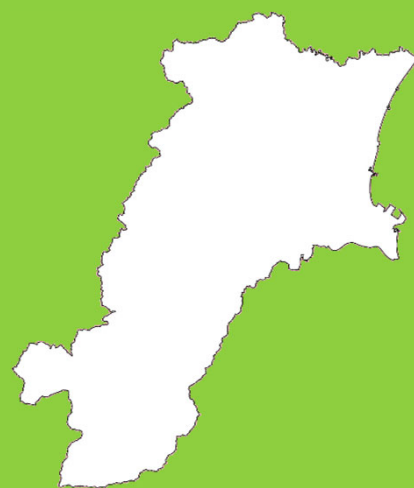
津市門型標識 長寿命化修繕計画

2021～2030

令和3年3月
(令和6年3月改定)



津 市



目 次

1. 長寿命化修繕計画の目的	1
1) 背景	1
2) 目的	1
2. 長寿命化修繕計画の対象施設	1
3. 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針	1
1) 健全度の把握の基本的な方針	1
2) 日常的な維持管理に関する基本的な方針	1
4. 対象施設の長寿命化及び修繕	
・更新に係る費用の縮減に関する基本的な方針	2
1) 長寿命化修繕計画の基本方針（対策の優先順位）	2
5. 対象施設ごとの概ねの点検・修繕計画	3
1) 次回定期点検時期	3
2) 修繕計画（計画期間）	3
3) 新技術等の活用	3
4) 短期的な数値目標	3
6. 長寿命化修繕計画による効果	4
1) 長寿命化修繕計画による効果	4
7. 計画策定担当部署	4

別添： 長寿命化修繕計画 点検・補修リスト

1. 長寿命化修繕計画の目的

1) 背景

- 津市においては令和3年3月1日現在、1基の門型標識を管理しています。
- 今後、従来同様の事後的な維持管理では維持管理に係る費用が膨大となり、利用者への安全性や信頼性を確保するための適切な維持管理の継続が困難となり、結果として道路サービスの低下に繋がることが予想されます。

2) 目的

- 安全性や信頼性を確保した道路サービスを提供すべく、長寿命化修繕計画を策定し、従来の事後的な維持管理から予防的な修繕および計画的な更新を実施することで、予防保全型へと管理手法の転換を図ります。
- 長寿命化修繕計画に基づき、門型標識の長寿命化並びに維持管理費用の縮減を図ります。

2. 長寿命化修繕計画の対象施設

施設名	路線名	建設年次	構造形式
道路標識	津港跡部線	不明	門型式

3. 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

1) 健全度の把握の基本的な方針

- 健全度の把握は、三重県門型標識等定期点検要領（案）に基づく点検を定期的に実施し、門型標識の損傷状況を踏まえ継続的に健全度の把握を行っていきます。

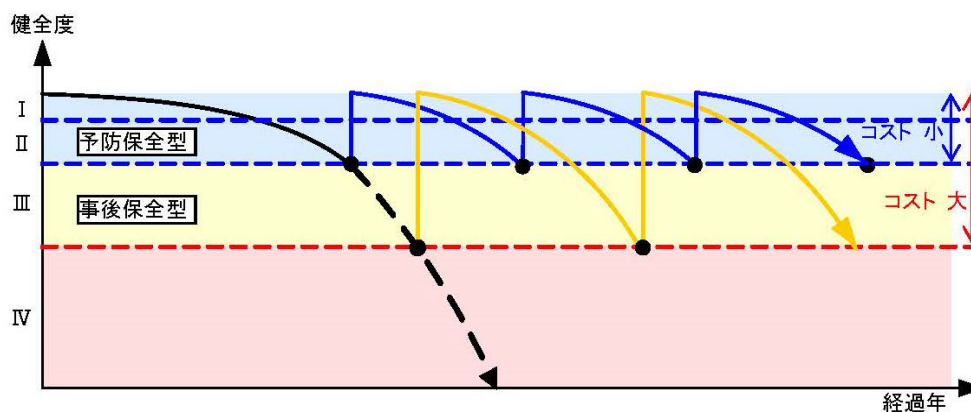
2) 日常的な維持管理に関する基本的な方針

- 門型標識を良好な状態に保つため、日常的な維持管理として、パトロール等の実施を徹底していきます。

4. 対象施設の長寿命化及び修繕・更新に係る費用の縮減に関する基本的な方針

1) 長寿命化修繕計画の基本方針（対策の優先順位）

- 門型標識の損傷が深刻な状態に陥った段階で、大規模な修繕や更新を実施する対症療法型の維持管理から、定期的に点検を実施して、損傷が深刻な状態に陥る前に修繕を実施する予防保全型へと維持管理手法の転換を図ることで、門型標識の寿命を延ばすことが可能となり、修繕および更新に係る維持管理費用の縮減に努めていきます。



区分		評価基準
I	健全	構造物の機能に支障が生じていない状態
II	予防保全	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態
III	早期措置	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態
IV	緊急措置	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態

—：管理水準

- 計画的に定期点検を実施して、最新の点検結果に基づき適宜計画の見直しを行っていきます。

5. 対象施設ごとの概ねの点検・修繕計画

1) 次回定期点検時期

- 定期点検とは、予め一定の期間を定めて行うもので、三重県門型標識等定期点検要領（案）に基づき、5年に1回の頻度で実施します。
- 対象施設の状態

施設名	路線名	建設年次	点検年度	健全度
道路標識	津港跡部線	不明	R1	Ⅱ

2) 修繕計画（計画期間）

- 門型標識長寿命化修繕計画に基づく、対象施設毎の年度別の対策費は次のとおりです。なお、本表に示す数値は修繕計画により想定したもので、事業実施に係る数値とは異なるため、適宜見直しを行っていきます。

（単位：千円）

	令和3年度 計画	令和4年度 計画	令和5年度 計画	令和6年度 計画	令和7年度 計画
道路標識	0	0	0	2,500	0

	令和8年度 計画	令和9年度 計画	令和10年度 計画	令和11年度 計画	令和12年度 計画
道路標識	0	0	0	2,500	0

※ 令和3年3月現在の表であり、今後、計画的に定期点検を実施し、点検結果に基づき適宜見直しを行っていきます。

3) 新技術等の活用

- 定期点検や修繕等の実施にあたり、費用の縮減や事業の効率化を図るため「点検支援技術性能カタログ(案)」や「新技術情報提供システム(NETIS)」に掲載されている技術や、材料等の活用を検討します。

4) 短期的な数値目標

- 次回点検時に支柱路面境界部以深の変状を非破壊で点検できる新技術を活用することで従来技術と比べて、今後5年間で約8千円程度の費用縮減を目標とします。
また、補修については、炭素繊維材を活用することで従来技術と比べて、今後10年間で約1万円程度の費用縮減及び部材の延命化を目標とします。

6. 長寿命化修繕計画による効果

1) 長寿命化修繕計画による効果

- 計画に則った定期的な点検を実施することにより、門型標識の損傷を早期に発見し、深刻化する前に修繕を実施することで、安全性と信頼性を確保した道路サービスが提供されます。
- 予防的な維持管理が実施されることで、門型標識の長寿命化やライフサイクルコストの縮減が図られます。

7. 計画策定担当部署

計画策定担当部署

三重県 津市 建設部建設整備課 059-229-3195

